

特集 ②

弓削島の空き家活用の取り組み

NPO法人頼れるふるさとネット 事務局長 古川

優哉 (上島町)



NPO法人頼れるふるさとネット について

NPO法人頼れるふるさとネットは、2012年4月に立ち上がったNPO法人です。NPO立ち上げ以前は「上島町自治研究会」として、地域についての情報交換活動をしていましたが、弓削島出身の篤志家の方より「ふるさとのために役立ててほしい」とご寄付をいただいたことをきっかけとして、NPO法人として再出発しました。「住民自治」をキーワードとして住民自身が中心となって町を盛り上げていくことを目指し、地域の者を中心に20名程度の会員で活動を行っています。

活動の概要と実績

私たちが活動拠点とする上島町は、7つの有人離島からなる人口約7,500人の町です。全国の中山間地域の例に漏れず、少子高齢化が深刻化し、町の人口減少は加速の



当法人の活動拠点「やよみ亭」

一途をたどっています。高齢化率は41.87%で、県下では久万高原町に次ぐ高齢化率の高い自治体です(平成26年度高齢者人口等統計表(愛媛県長寿介護課調査)参照)。

また、高齢化に比例して、町には空き家も増えています。当法人の活動拠点である弓削島だけでも200軒近い空き家があり、中には廃屋化して人が住めない状態のものも少なくありません。人口

減少と空き家増加という2つの課題を目の前にして、なんとかできないものかと始めたのが「島暮らしネット」でした。

「島暮らしネット」は、いわゆる空き家情報バンクです。インターネットを通じて町の空き家情報

を発信し、移住希望者の住まい探しをサポートしています。また、それに加えて、実際にこの町に住むに当たつてのサポートもさせていただいています。都市部から移住してきた方は、地元の方との繋がりがなく、地域のルールなどにも馴染みがないことがほとんどです。そこで、歓迎会を開催したりNPOのイベントがある時に声を掛け地域の方との交流の場を設けたり、地域での暮らし方についてアドバイスをするなど、地元有志からなる団体ならではの活動を行っています。

幸いなことに、ここ数年、上島町には都市部からの移住者が増え始めています。農業を始める方、地域活性化のために活動される方、地域おこし協力隊をきっかけとして上島町に定住した方、定年後の安住の地として選ばれた方・・・ここ数年だけでも10組近い方々が上島町を定住先として選び、日々の島暮らしを楽しまれています。こうした方々の都市部との繋がりが利用しつつ、島に移住者を呼び込むことを目指しています。

昨年は、2軒の空き家を紹介しまし

今後の課題と目標

「島暮らしネット」の立ち上げから1年が経ちましたが、難しさを感じている点もあります。まず、「空き家バンク」という観点から見るとき、空き家は多くても、実際に家を貸して下さる方はとても少ないということがその一つです。「年に一度親戚が帰ってくる」、「荷物が残っている」、「見知らぬ人に家を貸すのは

怖い」など、その理由は様々です。「空き家はあるが貸したくない」という方に向けて、「町の将来のためになんとかしよう!」と思っただけのような活動も並行して必要だと感じています。

また、町外から島への移住ということでも一番問題になるのは、実は「住まい」よりも「仕事」です。当たり前のことですが、特に若い世代にとっては、家があっても仕事があれば暮らしていくことができます。田舎に住んでみたいという人は年々増加傾向にあるようですが、田舎にはそれほどたくさんの仕事がないのも現実です。

とはいえ、打開策がないわけではありません。例えば、企業と連携して「空き家」と「仕事」をセットにして移住者を呼び込むというのも一つのアイデアだと思います。そこに行政も関わり、「地域活性化」のひとつとして募集すれば、事例としても面白いものになるはずです。その意味では、「地域おこし協力隊」の取り組みは、様々な課題を残しつつも好事例かと思えます。また、地域に必要な職種を求人することで活性化を狙う自治体もあり、これも有効な方



空き家を利用してNPOを立ち上げられたご夫妻

法かと思えます。しかし、「地域活性化」や「地域おこし」などどと大上段に構えずとも、「住む」ということをもってシンプルに捉えることで、田舎に人を呼び込む手段はもっと広がるのではないのでしょうか。新しい職種を募集するだけでなく、地元にもともとある仕事を使って人を呼び込む。行政、地域の企業、NPOなどの地域団体が手を取り合えば、そのような地に足の着いた活動も可能だと考えています。

結びにかえて

当法人は1年に1組の若い移住者を島に呼び込むことを目標にしていますが、地域の方々のご協力のおかげで、立ち上げから3年連続で達成することができました。課題は少なくありませんが、今後も様々なアイデアを形にできるような活動を続け、少しでも町の活性化に繋がってきたいと思っています。



昨年弓削島に越してきた若者